

米国における図書館の現状 ——米国研修報告——

Current Status of Libraries in the United States : Report on the Study Tour to the United States

山本宗由*, 伊藤真理**

Muneyoshi YAMAMOTO, Mari ITOH

1. はじめに

2013年11月1日(金)～7日(木)の期間に、ボストン公共図書館(Boston Public Library, 以下BPL)と米国議会図書館(Library of Congress, 以下LC)の視察を行なった。本稿では視察した上記2館の状況を報告する。また研修期間中に米国の図書館員の方からお話を伺う機会があったため、その内容もあわせて報告する。

なお、研修の日程は以下に記す通りである。

- 11/ 1(金) ボストン着
- 11/ 2(土) ボストン公共図書館視察
- 11/ 3(日) ボストン北部(レキシントン・セーレム・コンコード)視察
- 11/ 4(月) ボストンからワシントンへ
- 11/ 5(火) 議事堂・議会図書館視察
- 11/ 6(水) ニューヨークから日本へ
- 11/ 7(木) 名古屋着

2. ボストン公共図書館(BPL)

2.1 概要

米国では1848年に初めて図書館法が制定され、それに伴い設立されたのがBPLである^[1]。そのため、この図書館は米国最古の公共図書館とされている。また、中央館も併せて全部で26館から構成される大規模な図書館である。

今回はコプリー広場にある中央館を訪れた。中央館は1895年に建てられたMcKimビル(旧館)と、1972年に新設されたJohnsonビル(新館)から成る^[2]。開館時間は次のようになっている^[3]。

月曜日—木曜日：午前9時—午後9時

金曜日—土曜日：午前9時—午後5時

日曜日：午後1時—午後5時

日曜日に関しては開館時間が短い、決まった休館日はなく毎日開館している(児童室や一部のサービスは閉館時間よりも早く終わる)。

* 愛知淑徳大学大学院文化創造研究科

** 愛知淑徳大学人間情報学部 mritoh@asu.aasa.ac.jp

2.2 サービス内容

資料の貸出など公共図書館としての主なサービスは新館を中心に行われていたため、ここでは主に新館でのサービスにふれる。サービス内容は貸出サービスやレファレンスサービスなど、日本と大きく異なったサービスはみられなかった。資料数が多く、Johnson ビルの中二階には世界中の言語で書かれた図書が置かれていた。日本語で書かれた小説なども置かれていたが、日本のもので最も多く所蔵されていたのはマンガであった。児童室の入り口周辺に英語に翻訳された日本のマンガのスペースが作られており、人気の高さが感じ取れた。

また、設置してあるパソコンの数も多く、視察した時間は11時～13時頃であったが、常に何台か空きのある状態が保たれていた。利用者は調べ物をするだけでなく、動画サイトを見たりゲームをしたりと、多様な使われ方がされていた。そこから、図書館の利用者が多様な目的で図書館を訪れていることを伺い知ることができた。

2.3 所感

視察をして目に留まったのは主に次の3点だ。

(1) 開かれたミーティングルーム

図書館の中には誰でも利用できるようなミーティングルームが備えられていた。図書館が勉強や調査以外にも活用されているよい例と感じた。

(2) 意見板の設置

図書館の入り口には、意見を書いたメモ用紙を貼ることのできる意見板が設置してあった。図書館に対して改善してほしいこと、図書館を利用してよかったことなどを伝えることができるようになっており、図書館員と利用者の相互関係が築かれていると思われる。

(3) カフェの設置

図書館内にはカフェが設置されており、利用者がくつろぐことができるようになっていた。McKimビルの中庭付近に設置されており、どこからでも行きやすい位置にあった点もよいと感じた。その反面、図書館内で飲食後のゴミもいくつか発見し、問題を感じた。図書館は閲覧スペースでは飲食を禁止していたが、内部での飲食物のゴミに関する対処も必要なようであった。

今回の視察を通して、日本の図書館と大きく異なるサービスはないと感じたが、図書館を利用する人々に差があると感じた。BPLでは読書や勉強・調査以外の目的で訪れている人も多いようだった。そのことから、図書館の存在が一般市民全体に受け入れられ、必要とされていることを知ることができた。

3. 米国議会図書館 (LC)

今回、アジア部門リサーチスペシャリストのNakaharaさんからLCについて詳しくお話を伺うことができた。3章の記述は主にNakaharaさんからの説明によるものである。

3.1 概要

LCは1800年に創設された。米国を代表する国立図書館であり、日本の国立国会図書館のモデルにもなっている。1日に約2万点の資料が集まり、コレクション総数は訪問時点で約1億5千万点であった。コレクション数では世界最大である。

3.2 サービス内容

LCのサービス対象は、第一に議員、次に米国国民であるが、世界中の人々もサービス対象として意識しているとのことだった。LCのサービス内容は多岐にわたるが、その中でお話を伺った次の3つの取り組みについて

てまとめる。

(1) 資料のデジタル化

LCは早い時期からデジタル化に取り組んでいた。数ある資料の中で写真は誰でも利用しやすいため、まず写真からデジタル化に着手したとのことだ。また、デジタル化した写真をFlickr(写真共有サービス)にアップすることも行っているとのことだった。これにより、資料の発信をしつつ、Flickrの利用者から詳細のわからない資料についての情報を得ることもできるという、相互の利益が生まれているとのことだった。

(2) 新しい検索システム

現在、よりGoogleに近い検索が行える検索システムを開発しているとのことだった。新しいシステムでは、キーワードに含まれないもの(類似したもの)も検索することができるそうだ。新しい資料の発見が期待できる反面、膨大な件数の資料が検索に引っかかってしまうため、現状では従来のシステムと相互に利用していくのが好ましいとのことだった。

(3) デジタルレファレンスサービス

LCのホームページ上から質問することで、世界中どこからでもレファレンスサービスが受けられるとのことだった。日本語で質問することも可能であり、日本語のわかる人に回してもらうよう表記すれば、日本語での回答も得られるとのことだった。

3.3 アジア部門

LCには様々な部門があるが、今回アジア部門にある日本のコレクションについて詳しくお話を伺うことができた。アジア部門では日本に限らず、中国や韓国などアジア全体のコレクションが収集されている。日本のコレクションは訪問時点で約118万点あり、日本以外の図書館では世界最大とのことだ。日本の国立国会図書館とは資料の交換協定を結んでおり、常に日本の出版物が送られてくるとのことだった。

日本にない特別な資料としては、第二次世界大戦中の検閲文書を数多く保有しているとのことだった。また、日本にはない日本の貴重な文化資料もあるとのことだ。このことに関しては議論があるようで、日本の貴重資料を日本が所持していないことに疑問がある一方、日本は地震大国でもあり、災害から資料を守るという意味で日本以外の場所に保管することも必要なのではないかという意見もあるそうだ。こうした資料に関しては、日本でも利用できるようにデジタル化が進められているとのことだった。

4. 図書館の抱える問題

今回の研修で、LCのNakaharaさんに加え、アメリカン大学ミュージックライブラリー館長である松岡伸枝さんからお話を伺う機会に恵まれた。お話の中で知ることのできた図書館の抱える問題を以下にまとめる。

(1) 電子書籍の増加

近年電子書籍の出版が増加しており、来年あたりには紙媒体での出版量を上回るだろうとのことだった。そのような状況下で、図書館は長期的な電子媒体の保存方法を考えていかなければならない。

(2) 図書館に人が来ない

情報機器の発達により、図書館に来る人が減少している状況において、どのように人を図書館に呼び寄せるのかを考えていかなければならない。また、大学図書館では図書館員から利用者のところに行き、働きかけることが重要だと伺った。

(3) 配信サービスのみでCD化されない資料の提供(音楽資料の問題)

松岡さんからは最近の音楽図書館の問題についても伺うことができた。最近ではCDを刊行せずにインターネット上での配信サービスのみを行なっている楽団が増加している。そのようなサービスは個人契

約になるため、図書館では提供することができない。そういった資料を今後どのように利用者に提供していけばいいのかということが、現在の大きな課題だと伺った。

5. おわりに

今回2人の図書館員の方から、米国の図書館界の現状を詳しく伺うことができた。そのお話の中で感じたことは、利用者に対する積極性である。最近では図書館の利用者減少が問題視されているが、そのような中で利用者に積極的に働きかけようとする真摯な姿勢が感じ取れた。今回の研修を通して、米国の図書館から施設やサービス内容において見習うべき部分があった。しかし、最も見習うべきは、そこで働いている図書館員の意識の持ち方ではないかと感じた。

参考文献

- [1] 寺田光孝, 加藤三郎, 村越貴代美. 図書及び図書館史. 樹村房, 1999, pp. 72-73.
- [2] Boston Public Library. "A Brief History and Description", <http://www.bpl.org/general/history.htm>, (accessed 2013-11-19).
- [3] Boston Public Library. "Hours and Directions", <http://www.bpl.org/general/hours.htm>, (accessed 2013-11-19).